

市民みんなが安心してくらせる小金井のまちにしたい！ その決意をさらに強く太くつらぬきます

皆様のご支援に感謝申し上げます。この度小金井市政で、市民の願い実現に全力をつくすことを決意いたしました。今の市政が、値上げと増税、民間委託化で市民の生活を犠牲にしようとしている中、暮らしを守るために市議会から離れるわけにはいかない。そんな思いで決断しました。介護や子育て…どの分野でも政治の責任が問われています。身近な市議会の場で市民のみなさんの暮らしをサポートする小金井のまちをつくるため引き続き力をつくします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

森戸よう子

★頼りになる議員として

★乳幼児医療費助成を実現

森戸よう子市議が当選して一番に取り組んだのが、乳幼児医療費助成制度の創設でした。「アトピー性皮膚炎のお子さんの医療費の負担軽減を」と要求。条例提案権を持つ市議団は、条例を提案。ところが市長は、乳幼児医療費助成の所得制限を撤廃すると約束。

★保育園の増設へ

森戸よう子市議自身、2人の子どもとも2歳までは認可外保育室でした。長女が3歳でようやく公立保育園に入ることができましたが、別々の保育園の送り迎えは体力勝負でした。

だから、子育て真っ最中の子育て世代のみなさんの切実な願いの実現は、自分の様な苦勞をさせてはならないという思いからでています。この5年間で保育園の定員を500名以上増やすことができました。

★市民との共同を大切に

他党派との共同で市長が提出した条例の修正案の提出。また日本共産党市議団として、乳幼児医療費助成、都市計画税の減税、私立幼稚園保護者補助金の増額など条例を提案し、実現させてきました。

★市議会初の女性議長など歴任 市議会の活性化にとりくむ

森戸市議は、市議会初の女性議長として、難しい議会運営に挑むとともに、この4年間は議会基本条例制定のための座長を務め、他党派の協力も得て、全会派一致で条例制定までこぎつけました。



市民と超党派の議員で発足させたこがねいピースアクション 2015 実行委員会の宣伝でマイクを持つ森戸市議

森戸よう子のプロフィール

中学、高校、大学一バスケで心身を鍛える

2歳の頃



森戸よう子市議は、1956年鳥取県米子市で3人兄弟の2番目の長女として生まれました。

中学校ではバスケット部のキャプテンとして、高校では西部地区国体予選選抜選手として活躍しました。よう子さんは「やり始めたらいい加減でやめな」というお母さんの言葉をかみしめ、最後まで頑張りました。

こうした青春時代のスポーツで鍛えた心と体が、今も議員として日夜をたぬ活動を支えています。

小金井市議会初！出産した女性議員として

他党派と修正案を提案(2期目)



森戸よう子市議は、1989年32歳で市議会議員に初当選。その翌年、長男が誕生しました。出産の1週間前まで議会で発言。スウェーデンのような代理制度があればよいのと感じました。2人の子どもは別々の保育園へ。朝夕は、ベビーカーを押しなが

ら別々の保育園を行ったり来たり。夫と協力し合いながらの子育てを経験。子育ての苦勞がわかる森戸市議だからこそ、市民の立場で活動することができます。

市民に身近な議員をめざして

森戸よう子市議は、市議会初の女性議長として大役を務め、現在は議会運営委員長として、他の党派の協力も得ながら、市民にわかりやすい議会運営に努めています。

また他党派との共同を大切にしなが、市民の願い実現に力をつくしてきました。

生活相談件数は28年間で1300件を超えます。森戸さんの親身な対応に「相談してよかった」との声が寄せられています。



新小金井駅付近踏切の改善が実現